

「垂れ目」「大きな鼻」

確かな「尊氏」

肖像画の写し発見

室町幕府の初代将軍・足利尊氏（1305～58年）の死後間もない14世紀末に描かれたとみられる肖像画の写しが見つかった。尊氏の室町時代の肖像画は他に1点しかなく、専門家は「垂れ目や大きな鼻の特徴が似ている。意見が分かれる尊氏の顔立ちを伝える貴重な資料だ」としている。肖像画は宇都宮市の栃木県立博物館で29日まで公開されている。

博物館によると、肖像画は縦約90センチ、横約40センチで軸装されている。下部に正装して着座する人物が描かれ、画の人物の来歴が上方に十数行つづられている。尊氏の業績として知られる事実が記され、尊氏を示す「長寿寺殿」という言葉もあり、尊氏と断定した。

約2年半前、博物館の研究者らが東京都内で古書などを扱う業者が所有しているのを

顔立ち伝える貴重な資料

見つけた。

肖像画の大きな鼻や垂れ目は、室町時代に描かれたとされる別の肖像画や木像とも酷似。最近まで尊氏として教科書などで紹介されてきた「騎馬武者像」は、馬具などに描かれた家紋が違うため、別人の可能性が指摘されている。

今回見つかった肖像画は、年号や服装の誤り、絹の質から、14世紀末に描かれたものを、15世紀半ばに写したものとみられる。博物館の本田論特別研究員は「尊氏の死後間もなく描かれ、より正確に顔立ちを示しているはずだ」と話している。



新たに見つかった足利尊氏の肖像画の写し（部分、左）と最近まで尊氏として紹介されてきた「騎馬武者像」（模本）（栃木県立博物館提供）

（2017年10月28日河北新報朝刊）

問題

- ① 今回肖像画が発見された室町幕府の初代将軍は、何という名前でしょうか。
()
- ② 博物館の所在地は
()
- ③ 肖像画を所有していたのは
()

（小学校高学年以上／朝の会、社会）

出題者から

これまで尊氏の肖像画として教科書で紹介されてきた騎馬武者像は、別人の可能性が高く、発見された肖像画がこれからは尊氏の顔として紹介されることになりそうです。新しい資料の発見によって、これからも歴史の常識が大きく変わるかもしれません。歴史の教科書の動向に注目してみましょう。

（日本新聞協会NIEアドバイザー・柴田町船岡小主幹教諭 坂本謙）

※「かほくワークシート」は「河北新報オンラインニュース」からA4判にダウンロードできます。

河北新報の記事を題材に、学校や家庭で学ぶためのワークシートです。宮城県内の小中高校の教員や教員経験者が出題します。